

【横浜町】 農山漁村の「地域経営」取組事例

横浜町地域農業再生協議会の取組

横浜町は、人口約4,300人の半農半漁の町です。少子高齢化が進む中で第一次産業、とりわけ農業における担い手不足が大きな課題となっています。

下北縦貫道路の整備が進み、交通の利便性が図られることは、町民としては喜ばしいことである一方、横浜町の農林水産物の販売拠点「道の駅」が通過点となり、利用者の減少が懸念されます。このため、経営改善や関係各団体の知識・技術向上を図り、「道の駅」、「産業」、「町」の活性化を図るよう各種事業に取り組んでいます。

1 マネジメント部会の開催

弘前大学の平井教授にファシリテーターを担ってもらい、令和3年8月、交流館どんどりの里において、地域の課題解決や経営体の体制づくりについて検討しました。また、若手農業者からこれからの横浜町の農業についても意見を出し合ってもらいました。



(マネジメント部会)

2 料理教室の開催

料理研究家の千葉先生を講師に招き、町の特産品（菜の花はちみつ）を使用したスイーツ開発に取り組みました。その後、定番商品として道の駅の売り場に並んでいます。



(料理教室)

3 高齢者向けメニューの試食、検討

保健師や栄養士等を集め、高齢者向けの試作品の試食、検討を行いました。高齢者が集まる場に出向き、新商品として売り場に並べ、感想や意見を集約し、改善に努めました。



(試食・検討)



(売り場での様子)

4 冬の農業、試験栽培

若手農業者に協力を依頼し、寒締めこまつなの試験栽培を実施しました。栽培を通しての改善点を見だし、は種時期等の栽培方法を把握することができました。また、実際に道の駅に出荷をすることもできました。



(こまつなの栽培研修会)